



2月1日提出 八地申第4号

現業機関における柔軟な働き方の実現に向けた 統括センターの設置に関する申し入れ 提出！！

2023年10月4日、支社から「現業機関における柔軟な働き方の実現に向けた統括センターの設置について」提案を受けました。2022年3月12日、6つの営業統括センターがスタートし、乗務員区の全社員が兼務になり、合わせて組織横断プロジェクトや各ユニットも発足し活動しています。しかしこれまで、現場社員からは慢性的な要員不足から必ずしも施策への納得感が得られているとは言えず、成長意欲・チャレンジを具現化できるフレキシブルな組織として活躍のフィールドが広がられているのか疑問と不安の声が後を絶ちません。また安全で安定した輸送を支えるためには「主たる業務」を明確にした作業環境と要員の配置が重要な課題でもあります。

鉄道事業の最大の根幹である安全な職場を構築し、社員が描くキャリアプランに近づけモチベーションを保つことも成長的発展につながる要素でもあります。八王子地本は、組合員が安心感や納得感をもって施策に向き合い、魅力あるJR東日本会社・グループ会社を構築し、働きがいがあるように下記の通り申し入れました。

申し入れ項目

1. 各営業統括センターの発足後の成果と課題を明らかにすること。
2. 「柔軟な働き方」施策において、「21世紀における効率化の実施に関する覚書」に踏まえて、安全性を高めお客さまに安心した鉄道輸送の提供と異常時対応も十分に考慮し、地域との連携ならびに収益確保に向け、安全・安心に働きかつ技術・技能継承ができる体制の構築と、組合員・社員に理解と納得感のある施策にすること。
3. 「新たなジョブローテーション」のもと、社員がキャリアプランを描くには「主たる業務」が明確になることが重要であることから、主勤務地ならびに主となる担務と業務内容を明確にした社員運用にすること。
4. 働き方や出勤時間・箇所が変わり、乗務業務と駅業務が融合するため、就業規則に則り、生活設計上毎月25日までに勤務指定を行うこと。
5. 労働時間管理ならびに勤務指定の際の公休日付与や特休付与の管理は、管理者が責任をもって行うこと。また、統括センターが設置されることで生産性が上がることから、管理者も含め不要な超過勤務を削減させること。
6. 手当等が伴う担務においては、「業務の融合」ならびに他の担務との「兼務や連携」を行わないこと。担当する業務は、主たる業務を含め2つまでとすると共に、月の半分以上は主たる業務に就かせること。また、本部・本社間の議論経過に踏まえ、他の統括センター・営業統括センターの兼務発令は行わないこと。
7. 豊田統括センターの日野駅を本体運営にする目的と、運営体制について明らかとすること。
8. 設備職場と統括センターの連携における変化点を明らかにすること。
9. 武蔵野運輸区について、統括センター化等の今後の展望を示すこと。
10. 立川・豊田・八王子統括センターは2024年3月のダイヤ改正で発足予定なので、立川・八王子営業統括センター社員と立川運転区・立川車掌区・豊田運輸区・八王子運輸区社員に、社員代表選挙のスケジュールを予め示し、理解と納得感のあるように行うこと。
11. 施策実施後は労使が検証を行い、問題等が生じた際は労使協議すること。

今、安全で働きがいのある職場現実でしょうか？

安全・健康・ゆとり・働きがいある環境をつくりだそう！

